

タイ北部

素材研究 (海外)



自然に囲まれたチェンマイでは、郊外のエレファント・キャンプで象と触れ合うこともできます



タイの北部地方には21もの山岳民族が暮らし、独自の文化や言語、宗教を維持しています(写真はヤオ族)



チェンマイの大本山「ドイ・ステープ」。1383年に建立された大寺院は、今も人々の篤い信仰を集めています



チェンライ出身のアーティストが仏教や神話をモチーフにデザインした白亜の寺院「ワット・ロンクン」



チェンライ近郊に広がる美しい棚田の田園風景



チェンマイ市街地のショップには、シルバーなどの伝統工芸品も揃っています

何万ものコムローイ(熱気球)が一齐に夜空へ放たれる光景は圧巻です

王朝文化が織り成す700年の古都 伝統の祭りや山岳地帯の奥深い魅力も人気に

今年のツアーグランプリでパッケージ旅行部門の栄冠に輝いたエアーランドエーの「タイ北部チェンマイの旅」。ツアーのテーマであるロイクラトン祭りとコムローイ上げに象徴される伝統文化や歴史、自然などタイ北部の奥深い魅力が改めて注目されています。

個性的な文化と豊かな自然が彩るエリア

タイ北部地方はさまざまな民族の影響を受けて築き上げられた個性的な文化と、山岳地帯の豊かな自然に彩られたエリアとして、根強い人気を維持してきました。

「北方のバラ」と呼ばれるタイ第2の都市チェンマイや、ラオス・ミャンマーとの国境が接するゴールデン・トライアングルへの拠点でもある古都チェンライには、13世紀に建国された「ランナー王国」以来の700年以上に及ぶ歴史が刻まれています。

120にも及ぶ寺院があるチェンマイはタイでも有数の信仰の場であり、時代によって変化してきた様式の変化を確認しながら、開運やご利益を願う旧寺めぐりも楽しめます。チェンマイの郊外には長閑な山村の風景が広がり、象と触れ合えるエレファント・キャンプでは、象の背に乗って川を渡り、起伏のある山道を散策するトレッキングも人気を集めています。

国境に近いタイの北部地方には、21部族の約50万人に及ぶ山岳民族が暮らしており、それぞれに独自の文化や言語、宗教、民族衣装を持つ各部族の村々を訪れる現地旅行会社のツアーも催行されています。

バザールの生活体験と工房での制作体験

タイ国政府観光庁によると、現在、チェンマイを中心とするタイ北部には、約3000人も日本人が長期滞在をされており、この地域の風土や文化が日本人に馴染み深いものであることを物語っています。

チェンマイ市内にはいくつかの代表的な市場があり、地元ならではの生活用品や食料品が豊富に揃っているので、旅行者にとっても、値段交渉次第で割安に購入できるナイト・バザールや週末のマーケットで掘り出し物を見つけるのも楽しみの一つです。

チェンマイでは、夕方になるとチャンクラン通りに地元の新進アーティストの工芸品や山岳少数民族による工芸品が並び、チェンライでも、バスターミナル周辺で毎晩真夜中近くまでナイトバザールが開かれています。

タイ北部地方では、手先の器用な民族性を活かした質の高い伝統的な手工芸技術が今も受け継がれており、特に、タイシルクやコットン、木彫り、漆器、陶磁器、銀製品などが有名です。工房の中には、制作工程を見学するだけでなく、実際に制作体験を楽しめるところもあり、日本からの旅行者の間でも人気が高まっています。